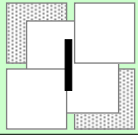


第3部 分野別の基本方針

- I 都市構造
- II 土地利用
- III 交通体系
- IV 都市環境
- V 都市防災



都市構造

まちづくりの基本的方向

- 1 川崎駅周辺や身近な地域の生活拠点が充実したまちを育みます
- 2 安全で暮らしやすい住環境のまちを育みます
- 3 地域間の連携強化をめざします
- 4 緑や水の環境を活かした潤いのあるまちを育みます
- 5 臨海部の再生をめざします

<現状・課題>

①都市拠点

- ・川崎駅周辺は、本市の「広域拠点」として、商業・業務機能の集積が進んでいますが、交通結節点としての人と環境に優しい駅周辺整備や、玄関口としての風格ある景観づくり、東海道の歴史や商店街の集積を活かしたにぎわいのあるまちづくりなどが求められています。
- ・大師地区は、川崎大師を中心とした歴史と文化を活かした観光・レクリエーション機能のさらなる充実が求められています。
- ・大島地区や小田地区など、既存商店街を核とした人と人がふれあえる生活拠点の形成が求められています。

②住環境

- ・川崎区の住宅地は、戦災復興土地区画整理事業によって市街地の骨格が形づくられてきましたが、小田、小田栄、浅田、渡田、浜町、鋼管通、四谷など面的整備が行われなかった地区は、老朽化した木造住宅が密集し、狭い道路が多いなど、防災上の課題があります。
- ・産業道路周辺の日ノ出、塩浜、四谷上町の一部、ＪＲ南武支線周辺の小田栄、元木、下並木などは、中小工場と住宅とが混在している地域もみられ、工場の操業環境と居住環境との調和が課題となっています。

③交通ネットワーク

- ・隣接都市間との交流・連携、さらに、羽田空港の再拡張・国際化に対応した広域交通ネットワークの形成が課題となっています。
- ・駅周辺の拠点地区と臨海部との連携強化、市街地と多摩川との連携強化を図るために、幹線道路や歩行者ネットワークの整備、鉄道やバス等の公共交通網の強化が求められています。
- ・バス路線網は、川崎駅を中心とした配置となっていることから、大師地区、田島地区、小田地区等相互の地域間の連携を高める公共交通網の整備が求められています。

④水と緑の環境

- ・川崎区は、市街化が早くから進み、農地はほとんど残されていません。緑被率は、平成 11 (1999) 年の緑の現況調査によると、水域を含めると約 21%、水域を含めないと、約 4% になります。その一方で、戦災復興土地区画整理事業等が行われた地域は、一定の都市基盤が整備され、身近な公園が点在し、街路樹のある道路も比較的整備されています。

- ・多摩川は、都市緑地に指定されており、水と緑のオアシスとなっていますが、沿川の多くは、大規模工場が立地し、市街地からのアクセスが必ずしも良くなく、貴重な自然環境が活かされていないことが課題です。
- ・川崎区は、唯一海に面する区として、東京湾に面した水際線が延びていますが、港湾緑地を除いてその多くは工場等の民有地が占めており、市民が水辺に親しめる場が限られています。

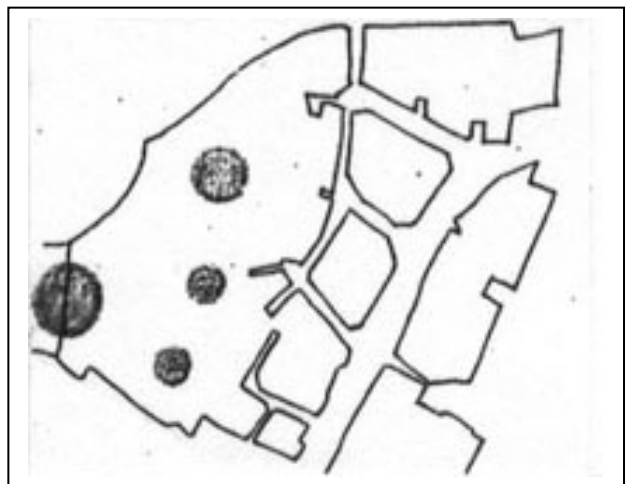
⑤臨海部再生

- ・臨海部地域は、重化学工業の集積立地により、我が国の経済をけん引してきましたが、近年の産業構造の転換や経済環境の変化に伴い、土地利用転換が進んでいます。これまでの生産機能の高度化や新規産業の立地も進みつつある中で、これらの動きを着実なものにしていく必要があります。
- ・臨海部に隣接する既成市街地は、住工混在や老朽木造住宅の密集等の課題を抱えている地区もあることから、大規模な工場跡地等の土地利用転換をきっかけにした周辺環境整備や海に開かれた快適な環境の創出、地域の防災性の向上に資する土地利用が求められています。

1 川崎駅周辺や身近な地域の生活拠点が充実したまちを育みます

(1) 広域拠点としての川崎駅周辺地区の整備

- ・川崎駅周辺地区は、本市の中心的な「広域拠点」として、商業・業務、文化機能の集積を活かしながら、土地の計画的な高度利用と都市機能の更新・強化をめざします。
- ・羽田空港の再拡張・国際化に対応した、民間活力を活かした都市の再整備を適切に誘導・促進し、広域的な集客施設の立地による、活力と魅力にあふれる拠点形成をめざします。
- ・隣接諸都市との交流や区内の地域連携を支える交通結節点の機能を高め、人に優しい駅前空間の整備に努めます。
- ・富士見公園の再整備や「緑化推進重点地区」としての都市緑化に努めるとともに、「広域拠点」にふさわしい都心景観の形成をめざします。



(2) 歴史や自然を活かした大師地区の育成

- ・歴史に育まれた庶民的な文化、風土を大切に、川崎大師や川崎大師駅を核にした商店街の活性化を促進し、観光・レクリエーション機能、商業・文化機能、居住機能が複合した地区コミュニティの核としての「生活拠点」の形成をめざします。
- ・川崎大師や大師公園、多摩川など地域の環境資源を活かし、誰もが安全・快適に歩くことができる回遊性の高いまちをめざします。

(3) 生活拠点（大島地区、小田地区）の育成

- ・大島地区や小田地区等住宅地の中に立地する古くからの商店街は、人と人がふれあえる地区コミュニティの「生活拠点」として、商業振興施策と連携して、住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。

2 安全で暮らしやすい住環境のまちを育みます

(1) 一定の基盤が整備された住宅地の住環境の向上

- ・地域の特性を活かした歴史と文化の息づく、安全で暮らしやすいまちをめざして、住民と協働して良好な住環境の維持・向上をめざします。
- ・低層戸建住宅と中高層の共同住宅とがバランスよく立地する、良好な街なみを形成するために、地区計画や建築協定等を活用した土地利用や街なみ景観のルールづくりをめざす住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。



(2) 木造密集住宅市街地の改善

- ・小田2・3丁目地区における防災上の課題を抱える木造密集住宅市街地では、老朽建築物等の共同建替・協調建替などを促進し、建替更新の機会をとらえた狭あい道路の拡幅や小広場の整備に努め、住民と協働して住環境の改善をめざします。

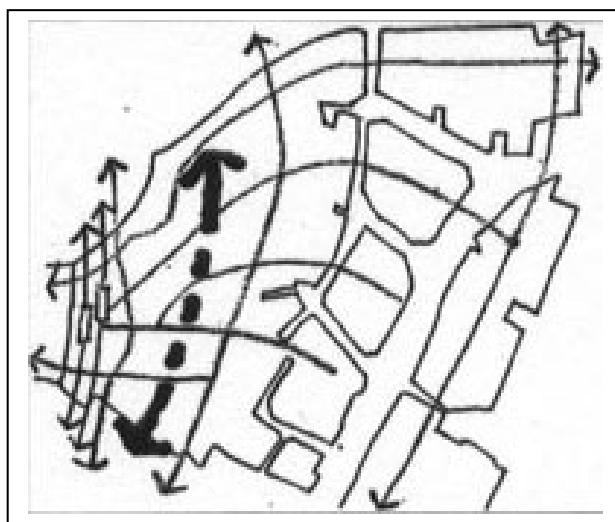
(3) 工業と住宅の用途が混在する地区（日の出・塩浜地区等）の改善

- ・日の出地区、塩浜地区等の準工業地域は、研究開発型都市を支えるものづくりの基盤技術を保有する中小工場が集積して立地していることから、工場の操業環境の維持・向上と住環境の調和をめざして、市街地環境の改善に努めます。
- ・住環境と工場の操業環境が調和した市街地を形成するために、地区計画や建築協定等を活用した土地利用や街なみ景観のルールづくりをめざす住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。

3 地域間の連携強化をめざします

(1) 市街地と臨海部との連携

- ・川崎駅周辺地区を中心にして、既成市街地から海へ向かう3本の「海への軸」を位置づけ、道路における緑化や沿道の街なみ景観の誘導を図り、緑と景観の質の向上をめざします。
- ・既成市街地と臨海部との連携を強化するために、川崎縦貫道路Ⅰ期（高速川崎縦貫線）を都市の骨格を形づくる広域幹線道路として、大師道・浮島通り（国道409号線）、市役所通り・富士見通り（川崎駅東扇島線）等を市街地の骨格を形づくる幹線道路として位置づけ、地域間の連携強化をめざします。
- ・幹線道路の整備に際しては、街路緑化や沿道景観の誘導を図り、緑の景観の向上に努めます。
- ・臨海部への鉄道アクセスを向上させるために、臨海部の再編整備の動向にあわせて、JR東海道貨物支線貨客併用化や（仮称）川崎アプローチ線の整備に向け、検討を進めます。



(2) 市街地の各拠点間の連携

- ・羽田空港の再拡張・国際化に対応して、羽田連絡道路と臨海部幹線道路などの整備をめざします。
- ・隣接都市との連携、区内の各生活拠点間の連携を強化するために、第一京浜（国道 15 号線）、産業道路（東京大師横浜線）、国道 357 号線等を市街地の骨格を形づくる幹線道路として位置づけ、地域間の連携強化をめざします。
- ・踏切除去による渋滞緩和や地域の分断を解消するために、京急大師線の連続立体交差事業を進めます。特に効果の大きい産業道路を優先的に立体化するために、東門前駅から小島新田駅までの整備を進めます。
- ・旧東海道の歴史を活かした歩行者空間の改善や沿道の街なみ景観の改善に向けて、住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。

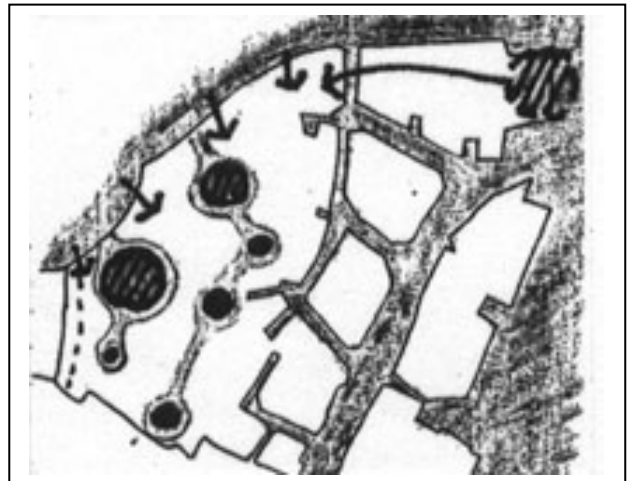
(3) 生活拠点間の連携

- ・拠点間連携を強化するために、幹線道路網の整備にあわせて、地域の実情に応じた安全で快適な歩行者空間の整備・改善に努めます。

4 緑や水の環境を活かした潤いのあるまちを育みます

(1) 海に面し、海に開いたまちを育みます

- ・臨海部は、川崎区にとって、そして川崎市にとって貴重な財産である海を活かしたまちづくりを進める地域として、土地利用転換等の機会をとらえて、市民が海にアクセスすることができ、水に親しむことのできる空間の創造をめざします。
- ・浮島から東扇島にかけての沿岸地域は、新しい市民の港として、海に親しむことができる市民に開かれた「親水空間のネットワーク」の形成をめざします。
- ・内奥運河沿いの水際線は、大規模工場跡地の土地利用転換等の機会にあわせて親水護岸や緑地の整備を誘導し、市民が水辺に親しめる空間づくりや運河を活かした景観づくり、防災性の向上に資するまちづくりなどにより、「親水空間のネットワーク」の形成をめざします。



(2) 多摩川を活かしたまちを育みます

①多摩川の自然を活かしたまち

- ・多摩川は、地域の貴重な自然環境であり、市民の憩いの場でもあることから、多摩川から海へとつながる「(仮称) 多摩川軸」と位置づけ、「多摩川プラン」を策定し、市民の利用環境の改善と、魅力ある水辺空間づくりをめざします。
- ・多摩川河口の干潟は、生態系保持空間として、水辺の豊かな自然環境の保全をめざします。
- ・大師橋から上流の区域は、スポーツやレクリエーション、環境学習の空間として、市民の利用環境の改善に努めます。さらに、川崎駅周辺地区から海へのアクセスやサイクリングコースの改善などの検討を進めます。
- ・沿川市街地の大規模な土地利用転換にあたっては、多摩川の自然と景観を活かした水辺に開かれた市街地の形成を誘導します。

②多摩川へのアクセスの改善

- ・市街地と多摩川とのつながりを強化し、市民の多摩川へのアクセスが容易になるよう、沿川の土地利用転換の機会をとらえ、歩行者空間の整備の誘導を図ります。
- ・大規模な工場等の機能更新や土地利用転換の機会をとらえ、国による高規格堤防（スーパー堤防）整備事業や人と川とのふれあい対策事業（緩傾斜スロープ整備等）と連携し、多摩川の自然資産を活用した、市街地と河川敷が一体利用できる空間形成をめざします。

③多摩川リバーサイド地区

- ・羽田空港に近接する立地条件を活かした多摩川の貴重な自然空間の活用と既存土地利用転換の誘導や市街地との連携、新たなまちづくりを支える地域内の都市基盤施設の整備をめざします。

（３）緑のネットワークを育みます

①緑の拠点となる公園・緑地の整備

- ・富士見公園、大師公園、桜川公園、小田公園、池上新町公園、浮島町公園、渡田新町公園、東扇島の港湾緑地を緑の拠点として位置づけ、地域の特性を活かした公園・緑地の整備等を市民の参加により進めます。

②緑のネットワークと緑化の推進

- ・緑の拠点である公園・緑地や住宅地内の身近な公園、工場を始めとした事業所緑化、さらに、住民の手による民有地の緑化を促進するとともに、幹線道路の道路緑化などにより、緑のネットワークの形成をめざします。
- ・川崎駅周辺地区は、「緑化推進重点地区」として、市民・事業者と協働して地域の緑化に取り組みます。

５ 臨海部の再生をめざします

（１）臨海都市拠点の整備

- ・臨海部では、首都圏における地理的優位性や再拡張・国際化が予定される羽田空港との近接性などを活かして、既存産業の高度化・複合化や研究開発機能等の集積をめざします。
- ・陸海空の交通の結節点を活かした物流拠点形成、先端的な環境技術の移転を通じた国際貢献などを推進するとともに、これらを支える基盤施設整備を進め、我が国を代表する産業拠点にふさわしい活力ある地域の形成をめざします。
- ・これらを先導する整備として、「浜川崎駅周辺地域」における拠点形成の促進とともに、羽田空港の再拡張・国際化を活かした「川崎殿町・大師河原地域」の拠点形成や交通基盤について整備をめざします。

